

委員会視察成果報告書

5年10月4日

犬山市議会議長

議員名 鈴木伸太郎

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

| | |
|------------------------|----------------------------------|
| (1) 視察年月日 | 5年10月2日(月) ~ 5年10月3日(火) (泊2日) |
| (2) 視察地 | 岡山県総社市 兵庫県豊岡市 |
| (3) 視察の種類 | (常任) 特別委員会 (総務委員会) |
| (4) 視察成果 (視察地ごとに記入) | 別紙 |
| | |
| | |
| | |
| (5) 犬山市に 対する提言 | 別紙 |
| | |
| | |
| | |



総務委員会 行政調査報告書

令和5年10月2日(月)～10月3日(火)

本年度総務委員会の主要な調査テーマである多文化共生について、岡山県総社市および兵庫県豊岡市に赴き調査を行った。

○岡山県総社市

県央南部、人口70千人、岡山市倉敷市の通勤圏にある点、高速道路アクセスに便利な点、自動車産業関連が盛んな点等、犬山に似た環境。

R5年4月、総人口のうち外国人比率2.2%、半数がベトナム、ブラジル・中国・フィリピンと続く。

平成時代、南米系日系人が市内に転居してきたが、リーマンショックで相談が増え、商工観光課内に通訳を配置し、雇用相談実施。しかし、相談内容は雇用に限らず、住宅・医療・保険・教育など生活全般に拡大してきたため、H21より人権・まちづくり課内で対応。

外国人窓口を設置、通訳1名(ポルトガルスペイン英語)配置。H31よりベトナム語増員。

H22、「総社ブラジリアンコミュニティ」設立、現在は南米系に限らず外国人が交流する団体として活動、日本人コミュニティ団体との交流会実施。

日本語教育に関して、日本後教育有資格者中心に実施、毎週日曜約20名参加(登録は100名)。

岡山県に本拠を置き、国内外への医療サポート等をするAMDA(国際医療情報センター)という団体、公設国際貢献大学校等と連携し、外国人防災リーダー養成活動を実施、R4で8カ国43名を認定。他県への派遣も展開している

調査を終えて

- ・AMDA、公設国際貢献大学校のような団体は犬山の身近には存在しない。名古屋経済大学は性質は異なるものの、協力関係を強くすることで外国人と地域とのつなぎ役になってくれる可能性を感じる。
- ・外国人防災リーダーが災害時に実際に積極的に活動しているようには見受けられないものの、このような活動を通して、外国人に災害時の情報を口コミやSNSなど、彼らの持つネットワークを通して拡散していく体制づくりが必要。
- ・大規模な防災訓練で、外国人にも参加を促す必要あり。
- ・市役所の通訳は正規職員にすべき。

○兵庫県豊岡市

兵庫県北部、人口77千人、面積700㎢、1市5町が合併。空港、城崎温泉、玄武洞、コウノトリ、出石、スキー場、田島牛、海産物、ブランド米、そば、鞆等、観光資源に恵まれているが、人口減深刻。

R3の外国人比率1%、ベトナム、フィリピン、中国の順。鞆製造、漁業、観光産業等に従事。

「多文化共生プラン」を作成するにあたり、神戸大学の協力を得る。担当は企画系、作成後はまちづくり系部署で多文化共生事業を展開。現在も多文化共生の会議体で大学は参画、調査も展開中で、関係性は維持されている。近日中に書籍出版予定。

日本語教育については、NPOにほんご豊岡あいうえおが中心的存在。子供への日本語教室、年齢層を広げた教室など、犬山のシェイクハンズと実施内容は重なる。

市域が広いだけでなく、県北部(但馬地域)全域をカバーする役割も担っており、県庁所在地から離れていることもあって存在意義は重い。生活相談事業も実施しており、市と連携して外国人の暮らしを総合的にサポートしている。

月2回、居場所作りのイベントを開催し、人的文化的交流事業を展開。かなり大変そう。市では芸術、特に演劇に注力しており、多文化共生もその枠組みに取り入れられ、外国人による発表が行われている。

当地の課題として、人材不足、国際交流協会との連携の在り方などが示されたが、これは犬山も同様。

調査を終えて

- ・多文化共生の総合的な視点は企画系、市長直轄の部局が担当しないとダメ。
- ・コンパクトな面積で展開できているのは犬山の強みだが、反面、各市町間の連携に課題があるのでは？(自治体の壁・各市町で活動するNPO間の連携)
- ・見学した日本語教室では、元教員が講師を務めていた。元教員の協力は有益。
- ・月2回の文化交流は有効だが、月1回もしくは隔月展開が妥当。その中で防災教育を取り入れると良い。
- ・NPO、国際交流協会他、関連団体の交通整理が必要。また、国際交流協会の目的等、団体の活動見直しも必要。
- ・主に国籍で形成されるコミュニティ・情報ネットワークのリーダーを見つけ、そこにアプローチすれば情報が拡散していく、というスタイルを構築すべき。
- ・今後、犬山市北部でも外国人居住者は増えていく。後手にならないような対応が急がれる。

以上